

学校教育目標

北九州市立本城小学校 校長 近藤 勝彦

- 本城地域や家庭と連携して、「豊かな人間性とたくましい体を持ち、自ら学び自ら考え、協力してよりよい生活を創り出していく子ども」を育成する。

スローガン「時を守り 場を清め 礼を正す」の具体的指導と教師自らの実践

めざす学校像

- 明るく活気に満ちた学校
- 地域から信頼され、地域とともに歩む学校

めざす子ども像

率先垂範

めざす教師像

- 子ども・保護者・地域の期待と信頼にこたえる教師
- 日々の授業を大切にする教師
- 役割を自覚し、互いに知恵を出し合い、協力、協働する教師

知育【進んで学び、進んで考える子ども】

- 進んで本を読む子ども
- 授業が楽しいと感じる子ども
- 自分の考えをもち、書き、話せる子ども
- 家庭学習の習慣が定着している子ども

徳育【思いやりがあり、心優しい子ども】

- あいさつができる子ども
- 善悪の判断ができる子ども
- 困っている人を手助けできる子ども
- 進んで働く子ども
- 自己肯定感をもてる子ども

体育【心も体も健康でたくましい子ども】

- 進んで掃除、働く子ども
- 進んで運動する子ども
- 「早寝・早起き・朝ごはん」等、よい生活習慣を身に付けた子ども

本年度の重点

1 学年・学級・教科等経営の充実

- 1時間1時間の授業の充実を図る。→ 学習内容が理解できれば、授業が楽しくなる。授業が楽しいと学級は荒れない。
- 指導すべき内容が適切に指導できるよう、学習指導計画（北九州スタンダードカリキュラム）に基づいた実践を確実に行う。→ 学習指導要領の確実な実践 タブレットの効果的活用
- 学年相互に連携を深めながら、よりよい学級・教科等の経営を行う。→ ベテラン教員による若手教員の育成
- 各種研修を通して、資質・能力の向上を図る。（主題研究、若年教員研修、人権研修等）

2 基礎的・基本的な内容の確実な定着と学力向上

- 児童の内発的な学習意欲を喚起し、わかる喜びや成就感のある指導の展開を図る。→ 協働できる力、表現力・思考力の育成
- 専科授業、少人数指導や取り出し指導等の指導形態や指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努める。

3 特色ある教育活動

- SDGs（持続可能な開発目標・17）の視点で教育を推進する。→ 質の高い教育の提供、人権教育・環境教育等の充実
- 自他の人権を尊重し、相互のよさを認め合い、個性の伸長を図る教育を行う。→ 人権意識の高揚と人権感覚の育成
- 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、全教職員の共通理解を深め、関係機関や家庭との連携のもと全校体制による特別支援教育の推進に努める。【合理的配慮】 → 子ども達に、ひと手間かけた対応を・・・

4 業務改善と職員の健康管理

- 教職員一人一人の心身の健康管理に留意する。（ワークライフバランス）
- 児童に関わることができる時間の確保 定時退校日（毎月2回 18:00）の確実な実施

☆ 協働体制の強化・組織化（※ 諸問題に対して組織で対応 → 学年内で確実な報告・連絡・相談を・・・）☆

（教科 → 確かな学力の向上、健やかな体の育成）

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着
 - ・ 学習意欲の喚起と感動のある学習、協働的な学習
 - ・ 思考力・表現力・判断力の育成
 - ・ 学習活動・学習形態・教材教具等の工夫
 - ・ シビックプライドの醸成
 - ・ タブレットの効果的活用
- 年間指導計画にもとづいた意図的、計画的な実践
- （道徳 → 心の育ちの推進 ・ 道徳科）
 - 年間計画に沿って、計画的、継続的な指導を行う。
 - ・ 指導方法の工夫改善に努める。（自己肯定感をもてる子ども）
- （特別活動 → よりよい生活や人間関係を築こうとする児童の育成）
 - 個性の伸長と集団の一員である自覚を深め、協力してよりよい生活をしようとする自主的・実践的な態度の育成を図る。（進んで働く子ども）
 - ・ 係・当番活動、委員会活動等の充実
- （総合的な学習の時間）
 - 地域の素材を活かした教材を開発し、子どもの生き方を考えさせる教育計画を作成・実践する。
- （特別支援教育 → 子ども一人一人の教育的ニーズに応える。）
 - LD・ADHD・高機能自閉症等を含め、特別な支援を要する児童の実態を十分に把握し、一人一人の特性に応じた適切な指導体制と指導計画にもとづき、一人一人の特性に応じた指導に努める。
 - 関係機関との連携を深め、一人一人の特性に応じた指導に努める。

（人権教育 → 「学校教育における教育活動の基盤である。」という認識のもと、全教育課程の中で推進する。）

- 人権意識の高揚に努めるとともに、わかる授業の実践に努める。
 - ・ 学力、進路保障
- 自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度と実践力を結びつける。
 - ・ 「北九州市子どもつながりプログラム」を確実に実施する。
- （生徒指導 → 危機管理の「さしすせそ」による対応）
 - 「さ」最悪の事態を想定して 「し」慎重に
 - 「す」素早く 「せ」誠意をもって 「そ」組織で
 - いじめの早期発見に努め、職員の連携により早期解決を目指す。
 - 遅刻、不登校児童に対し、職員の連携による問題解決に努める。
 - 家庭や関係機関との綿密な連携を図る。
 - 共感的な児童理解を基盤に据えた学年・学級経営の充実を図る。
 - 毎日の健康観察を確実にし、児童一人一人の様子を把握し、心身両面においてケアをする。
 - ・ 何か変化を感じたら、しっかりと寄り添い、その思いを十分に聞き取る。 ※ 児童とのつながりを大切にする。
 - 「1に29、29に300」の危機管理意識の高揚
- （防災教育 → 主体的に行動する力の育成）
 - 防災対応能力の基礎の定着を図る。
 - ・ 避難訓練、年3回の実施
- （学校図書館教育 → 読書好きな子どもの育成、シビックプライドの醸成）
 - 学びの場としての学校図書館の環境整備と読書活動の充実を図る。